

平成 30 年度 厚生労働省委託

労働者等のキャリア形成における課題に応じた
キャリアコンサルティング技法の開発に関する
調査・研究事業 報告書

平成 31 年 3 月

公益財団法人 日本生産性本部

目次

はじめに	1
事業の概要	3
第1編 治療と職業生活の両立支援技法	7
第1章 治療と職業生活の両立にキャリアコンサルティングが求められる理由	8
第1節 治療と職業生活の両立支援を巡る状況	8
第1項 「治療と職業生活の両立支援」を取り巻く時代背景	8
第2項 国の政策の動向	9
第3項 治療と職業生活の両立は当たり前の時代に	10
第4項 本技法を手にとられた方へ	10
第2節 治療と職業生活の両立支援におけるキャリアコンサルタントの役割	11
第1項 はじめに	11
第2項 相談者の置かれた状況と自身の「がん」に対するイメージを理解する	11
第3項 個人への支援から環境介入へ	12
第4項 キャリアの再構築に繋がる質の高い支援を	13
第5項 求められる自己研鑽	13
第6項 マインド及び関わり方チェック	14
第2章 治療段階に応じた支援内容	16
第1節 はじめに	16
第2節 第0段階 組織体制の構築	17
第3節 第1段階 診断・検査	20
第4節 第2段階 治療開始	24
第5節 第3段階 復帰前	26
第6節 第4段階 復帰後	31
第3章 キャリアコンサルティングの具体的な進め方	35
第1節 キャリアコンサルティングの具体的な流れ	35
第2節 STEP0：安心安全の場づくり	36
第3節 STEP1：経験の再現&信頼関係の構築	41
第4節 STEP2：自己探索（内省）の支援	43
第5節 STEP3：意思決定・行動の支援	45
第6節 事例	47
第4章 関連団体	49
第5章 参考情報	51
第2編 就職氷河期世代の労働者への支援技法	53
第1章 「就職氷河期世代」へキャリアコンサルティングが求められる理由	54
第1節 「就職氷河期世代」の労働者を取り巻く現状	54

第2節	中小企業を中心とした人手不足の実情	55
第3節	求められるキャリアコンサルタントの支援	56
第2章	就職氷河期世代に対するキャリアコンサルタントのあり方	57
第1節	本技法で想定する相談者の分類	57
第2節	キャリアコンサルタントに求められる役割	59
第1項	相談者の意思決定支援	59
第2項	相談者への関わり方	59
第3章	キャリアコンサルティングの進め方	61
第1節	キャリアコンサルティングの基本的な進め方	61
第2節	就職氷河期の労働者に対するキャリアコンサルティングの流れ	62
第3節	STEP 0：場づくりと信頼関係の構築	63
第4節	STEP 1：働くことに対する意識・意欲の確認	68
第5節	STEP 2：働くことに関する価値観、基本的スキルの確認	72
第6節	STEP 3：啓発的経験	75
第7節	STEP 4：働くことに向けてのキャリアパスの計画と確認	81
第8節	STEP 5：自己理解、仕事理解、組織理解の支援	84
第9節	STEP 6：正社員に向けたキャリアパスの計画と確認	89
第10節	STEP 7：方策の実行（就職活動）	94
第11節	STEP 8：フォローアップの実施	101
第4章	ネットワークの構築	104
第3編	試行実施結果報告書	107
第1章	治療と職業生活の両立支援	108
第1節	試行実施概要	108
第2節	試行実施の結果	109
第3節	試行実施者総括	113
第2章	就職氷河期世代の労働者への支援	115
第1節	試行実施概要	115
第2節	試行実施の結果	116
第3節	試行実施後インタビュー実施者総括	118
巻末資料		121
資料1	相談者アンケート原本（治療と職業生活の両立支援）	122
資料2	相談者アンケート原本（就職氷河期の労働者への支援）	124
資料3	相談者インタビューシート原本（治療と職業生活の両立支援）	125
資料4	相談者インタビューシート原本（就職氷河期の労働者への支援）	126
委員名簿		127
協力者リスト		128

はじめに

人口減少下においても我が国の持続的な成長を実現させるためには、労働者一人ひとりの労働生産性の向上が欠かせません。「一億総活躍社会」や「働き方改革」の実現に向けて、「治療と職業生活の両立」や「就職氷河期世代の労働者」のキャリア形成上の課題解決に対する社会的関心、ニーズは高まりつつあります。

しかし、「治療と職業生活の両立」に課題を抱える労働者や「就職氷河期世代」の労働者に対するキャリアコンサルティングのノウハウは十分に確立しているとはいえません。そのため、本事業では、こうした課題に対応出来るキャリアコンサルタントの育成に向けて、実務上の留意点を取りまとめたキャリアコンサルティング技法を開発することとしました。キャリアコンサルティング技法開発を通して、キャリアコンサルタントの社会的な存在価値の向上を図っていくことが本事業の最終的な目的となります。

本事業におけるキャリアコンサルティング技法の開発テーマは二つあります。

一つ目は、「治療と職業生活の両立支援」です。がんを理由として1ヶ月以上連続して休業している従業員がいる事業所の割合は21%に及びます¹。これは、メンタルヘルスに次ぐ割合であり、事業場におけるがん治療と職業生活の両立支援は喫緊の課題です。本技法では相談者の治療段階に応じた支援内容や、具体的なキャリアコンサルティングの進め方を取りまとめました。なお、本報告書はがん患者のケースを取り上げていますが、このキャリアコンサルティング技法自体はその他の疾病と職業生活の両立支援にも活用可能です。

二つ目は、「就職氷河期世代の労働者への支援」です。1990年代半ばから2000年代半ばの時期は事業所が新卒採用を絞り込んだ時期にあたります。この期間に学卒・就職活動の期間が重なった人たちは「就職氷河期世代」と呼ばれ、大学（学部）卒業後の「就業者割合」が前後の世代より低く、「一時的な仕事に就いた者、進学も就職もしていない者の割合」の高い傾向がみられます²。現在も不本意ながら非正規雇用労働者として勤務されている方も多く、正規の社員との能力開発機会や労働条件、賃金格差が問題視されています。本技法では、就職氷河期世代の労働者で、現在不本意な非正規雇用労働者として働いている人たちへの支援方法を取りまとめています。

なお、本事業を通じて開発したキャリアコンサルティング技法は、キャリアコンサルタントと相談者の相互の信頼関係を構築した上で、相談者一人ひとりの置かれた状況や環境を検討した上で活用することが前提となります。キャリアコンサルタントとして、技法の意義を十分に理解し、適切に活用頂きますようお願い申し上げます。

最後に、本事業に多大なご協力を頂いた皆様にこの場をお借りしてお礼申し上げます。

2019年3月

公益財団法人日本生産性本部

¹ 「治療と職業生活の両立支援対策事業」厚生労働省委託事業（2013年）

² 「平成30年度学校基本調査（速報値）の公表について」文部科学省（2018年8月）

